

農業と科学

1986
1

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD

大規模経営に

役立つ技術の開発を

チッソ旭肥料株式会社
常務取締役

青柳 晃 夫

新年おめでとうございます。年頭に当り、読者の皆様にとりまして、本年が実り多き年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

我々肥料業界にとって最大の関心事は、何と云っても我が国農業の将来がどうなるか、ということです。現在の日本農業のありかたに対して、生産者自身も、消費者も、あるいは、政治や行政やあらゆるところで農業にかかわる者全員が、何らかの不満を持っています。この不幸な状況の根本原因がどこにあるか、と考えますと、日本農業そのものが、誰もが不満を持たざるを得ない状況にある、という現実そのものの中に存在する、といえましょう。つまり、現状の日本農業というものを改革してゆかねばならないということでは、国民の大方の賛成は得られると思います。では、どういう方向に改革すべきか、ということになりますと、現在では残念ながら日本の国民のあらゆる階層でコンセンサスが本当に成立していない状況にある、と認識せざるを得ません。ところで、世界の中の日本を考えた場合、天然資源に恵まれず、一億一千万という豊富な、しかも優秀な人口をかかえている国が、国際社会の中で自立してゆくためには、輸出国を国是として自由貿易体制を堅持して行く以外に、進むべき道はないのではないのでしょうか。日本農業の将来像も、このような大前提の中で模索しなければならないと思います。しかしながら、日本農業の現状は、まことに残念ながら、このような大きな流れと矛盾しつつ、新しい方向に踏み出すに至っておりません。

何と云っても、一農家平均1町歩少しというような零細な経営規模、農業生産力の主たる担い手が、片手間の第二種兼業農家であるという生産構造に原因する低生産性を、一刻も早く解消することが、日本農業に課せられた緊急の課題ではないか、と痛感致します。



このような政策を押し進めますと、いろいろな問題が発生して参りますが、日本経済全体の現在の力からすれば、解決できない筈はないと思います。

そこで、稲作であれば10町歩乃至20町歩、畑作であれば、施設園芸等を除いて5町歩を、一農家当りの標準経営面積として、これを何とか家族労働で経営できるような、総合的な農業技術の開発が、これから21世紀にかけての大きな課題になるのではないかと思います。

御承知のように、弊社は、技術陣の多年にわたる開発努力をふまえ、緩効性窒素肥料「CDU」、硝酸系高度化成肥料「燐硝安加里」、更に「被覆燐硝安加里」、「被覆尿素」等の、ユニークな特徴を有する肥料を販売致しておりますが、今後の農業技術の進むべき方向を先取りしつつ、これら特色ある肥料の普及・販売を通じ、いささかなりとも日本農業の正しい発展に貢献してゆきたいものと、心から念願致しております。

「農業と科学」は、主として肥料を中心に編集しておりますが、今後特に大規模経営に役立つ肥料にかかわる農業技術の紹介、普及といったものに、少しでも寄与できるよう、皆様のお力をお借りして、内容の充実努めたいと存じます。何卒積極的なご意見、ご批判を賜りますようお願い致します。皆様のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げ、新春のご挨拶と致します。

本号の内容

§ 大規模経営に役立つ技術の開発を……………(1)

チッソ旭肥料株式会社 青柳 晃夫
常務取締役

§ 鳥取県における
稲作技術の改善方針に関する一私見……………(2)

鳥取大学農学部 木下 取

§ 花木鉢物の生産とコーティング肥料……………(6)

長崎県総合農林試験場
野菜花き部長 油屋吉之助